

第1学年 国語科学習指導略案

2組 計27人(男子15人, 女子12人)

指導者 松山 佑美

- 1 単元 「友達のきらきら発表会」をしよう
(教材「ともだちに、きいてみよう」光村1年下)

2 単元の見どころ

- 言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気付き、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うことができる。【知識及び技能(1)ア, キ】
- 友達の頑張りを紹介するために、質問して必要な事柄を選び、順序を考えながら話したり、大事なことを落とさずに聞いたりすることができる。【A話すこと・聞くこと(1)ア, イ, エ】
- 友達の頑張りを知ることができるという言葉がもつよさを感じるとともに、話したり聞いたりする中で、思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力, 人間性等】

3 単元で目指す子供の姿

主体性	友達が頑張っていることについて進んで質問し、必要な事柄を考えながら話したり、大事なことを落とさずに最後まで聞いたりする資質・能力を高め、「友達のきらきら発表会」で友達の頑張りを紹介し、他教科等や実生活に生かそうとする。
協働性	友達や先生との「学び合い」を通して、友達の頑張りを紹介するための質問の仕方や、紹介するための事柄等を一緒に考え、課題をよりよく解決しようとする。
創造性	質問によって相手のことを詳しく理解し、選んだ事柄の順序を考えて話したり、大事なことを落とさずに聞いたりしながら、友達の頑張りがより分かりやすく伝わるように表現を工夫しようとする。

4 単元の位置とねらい

これまでに子供たちは、「なつやすみのことをはなそう」の学習で、経験したことから話題を決め、友達に伝わるように順序を考えながら話をしたり、聞いて質問したりする学習に取り組んできた。そこで、本単元では、「A話すこと・聞くこと ア 紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする言語活動」の「友達のきらきら発表会」を位置付ける。友達の頑張りを紹介するために質問し、紹介に必要な事柄を選ぶことや、選んだ事柄の順序を考えながら話したり、大事なことを落とさずに聞いたりすることができるようにする。ここでの学習は、学級の友達に出す問題とそのヒントを、二人で話し合っただけで考えを一つにまとめる教材「これは、なんでしょう」の学習につながっていく。また、一年間を振り返り、経験したことやできるようになったことを話したり、尋ねたりする生活科「もうすぐ2年生」の学習にも適用することができる。

5 指導計画(全4時間)

過程	時	学習課題	課題解決に迫る主な学習活動
つかむ・見通す	1	「友達のきらきら発表会」を開くためにどのように学習を進めていけばよいのかな。	友達の頑張りを紹介するために、どのように学習を進めていけばよいか考え、学習計画を立てる。
調べる	1	どのような質問をすればよいのかな。(本時)	友達の頑張りを紹介するためにどのような質問をすればよいか考え、質問し合う。
深める	1	〇〇さんの頑張りのどれを話せばよいのかな。	紹介に必要な事柄を選んだり、紹介の順序を考えたりする。
振り返る・生かす	1	「友達のきらきら発表会」をしよう。	順序を考えながら話したり、大事なことを落とさないように聞いたりする。
新たな学び		生活科「もうすぐ2年生」 新一年生のどきどきを紹介しよう。	入学体験をした入学予定者にインタビューし、分かったことを友達に紹介する。

6 本時

(1) 目標(2/4)

友達の頑張りを紹介するために、どのような内容をどのように質問すればよいのかを、考えることができる。

(2) 指導に当たって

ア 主体的な学びを実現する教師の手立て

「つかむ・見通す」過程で、相手の頑張りに関して質問している2つの動画を見せ、比較させることで、どのような質問をすれば、友達の頑張りを詳しく紹介できるのかを考え、学習への意欲や課題解決への見通しをもつことができるようにする。

イ 対話的な学びを実現する教師の手立て

「深める」過程で、全体の「学び合い」を設定し、ワークシートの記述を基に、聞き取った内容や感想を交流させることで、質問してよかったことを自覚させたり、質問が足りなかったなどの課題に気付かせ、考えを深めたり広げたりすることができるようにする。

ウ 深い学びを実現する教師の手立て

「振り返る・生かす」過程で、質問タイム①と②で何が変わったのか、なぜ変わったのかを振り返らせ、子供の気付きを価値付けることで、自分の質問の広がりや深まりを自覚したり、大事なことから尋ね、その後詳しく聞きたいことを尋ねるという質問の仕方の有用性・汎用性に気付いたりできるようにする。

過程(分)	主な学習活動と予想される子供の反応	教師の指導
つかむ・見通す (10)	<p>1 前時で考えた学習計画表を想起し、本時の学習内容について話し合う。</p> <p>松山先生の頑張りを紹介するために質問している二人は、どちらの質問の方がよいか。</p> <p>A先生の質問の方が、頑張りを詳しく知ることができそうだよ。</p> <p>A先生は、先生が頑張っていることを質問してくれたので嬉しかったです。</p>	<p>☆ 相手の頑張りを十分に引き出している動画とそうでない動画を視聴した感想を発表し合うことで、友達に質問をする際に頑張りを引き出す質問とそうでない質問があることに気付かせ、本時の学習課題につなげる。【主】</p> <p>○ 相手の頑張りを引き出していた動画を基に、どんな言葉を使って質問すればよいか課題解決への見通しをもち、学習への意欲を高めることができるようにする。【主】</p>
調べる (10)	<p>2 本時の学習課題を立てる。</p> <p>友達の頑張りを紹介するために、どのような質問をすればよいか。</p> <p>3 解決の見通しを全体で確認する。</p> <p>4 どのような質問をすればよいか考える。</p> <p>5 ペアで、互いの頑張っていることについて、質問し合う。【質問タイム①】</p> <p>友達は、何を頑張っているのかな。質問して、詳しく知ろう。</p> <p>何を頑張っていますか。</p> <p>靴並べを頑張っています。</p>	<p>○ どんな言葉を使って質問をすればよいか各自でワークシートにメモさせた上で、友達と質問し合うことで、質問の内容を明確にし、振り返る際に確認できるようにする。【対】</p> <p>○ 友達と質問し合った後、一人で聞き取ったことや、考えたことなどをメモに書かせる。この際、特に印象に残ったことを中心に書かせる。【対】</p>
深める (20)	<p>6 質問タイム①で気付いたことや感想を交流する。【全体での「学び合い」】</p> <p>友達から質問されて頑張りを話すことができたのはどんな質問をされたときかな。そして、何と答えたのかな。</p> <p>私は、「どのくらい」と質問されて、1日に朝と夕方の2回。」と答えました。</p> <p>Cさんは、「どのくらい」と質問されて、1日に2回頑張っていることを伝えることができたのですね。</p> <p>7 全体での「学び合い」で交流したことを生かして、再度質問し合う。【質問タイム②】</p> <p>1回目は、「どのくらい」を使わなかったから、次は「どのくらい」を聞いて回数を質問してみよう。</p>	<p>○ 全体での「学び合い」で、ワークシートを基に、気付いたことや感想を交流することで、質問してよかったことを自覚させたり、質問が足りなかったなどの課題に気付かせたりする。【対】</p> <p>○ 「質問されて頑張りを話すことができたのは、どんな質問ですか。」「どのような質問をしたら、友達の頑張りを知ることができましたか。」と質問する側、される側両方の立場で質問の仕方について問い掛けることで、様々な質問の仕方があることに気付かせ、考えを広げたり深めたりすることができるようにする。【深】</p> <p>◆ 全体の「学び合い」で考えた、新たな質問の内容や質問の仕方で再度友達に質問をしている。 【思考・判断・表現:「学び合い」,ワークシート】</p>
振り返る・生かす (5)	<p>8 まとめを交流し本時の学びを自覚する。</p> <p>何を頑張っているかを聞き、「どうして」、「どのくらい」などを質問すればよい。</p>	<p>○ 質問タイム②で何が変わったのか、なぜ変わったのかを振り返らせ、子供の気付きを価値付けすることで、自分の質問の広がりや深まりを自覚したり、初めに大事なことから尋ね、その後詳しく聞きたいことを尋ねるといった質問の仕方の有用性・汎用性に気付いたりすることができるようにする。【主】</p>

第1学年「友達のきらきら発表会」をしよう 本時（2/4）における授業構想シート

本時で期待される子供の姿

主体性	友達の頑張りを紹介するために進んで質問し、どのような質問をすればよいか考えたり、大事なことを落とさずに聞いたりする資質・能力を高め、「友達のきらきら発表会」や実生活に生かそうとする。
協働性	友達や先生との「学び合い」を通して、友達の頑張りを紹介するためにどのような内容をどのように質問すればよいかを一緒に考え、課題をよりよく解決しようとする。
創造性	「学び合い」で考えた新たな質問の内容や質問の仕方、友達に質問したり、大事なことを落とさずに聞いたりしながら、友達の頑張りをより詳しく知ろうとする。

本時で育成を目指す資質・能力

友達の頑張りを紹介するために、どのような内容をどのように質問すればよいかを、考えることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

本時で働かせたい「言葉による見方・考え方」

見方（～に着目して）

考え方（思考の枠組み・方法）

互いの質問の内容や質問の仕方に着目して、友達の頑張りを詳しく知るための質問を評価する。

「言葉による見方・考え方」を働かせた子供の発言の想定と教師の言葉掛け

課題解決で働く「言葉による見方・考え方」

<p>友達は、どんなことを頑張っていましたか。</p> <p>花子さんは、1日に2回も靴並べをしていました。</p> <p>太郎さんは、花子さんが1日に2回も靴並べをしていることが分かったんですね。</p> <p>私は、「どのくらいしていますか。」と聞きました。</p> <p>「どのくらい」を質問することで、回数を知ることができたんですね。</p> <p>私は、はるかさんに「どうして。」と質問したら、「家族が喜んでくれるから。」と答えてくれました。</p> <p>「どのくらい」や「どうして」と質問したんですね。なぜ、そのような質問をしたのですか。</p> <p>友達の頑張りを詳しく知りたかったからです。</p> <p>では、友達の頑張りを紹介するためには、どのような質問をすればよいか。</p> <p>何を頑張っているかを聞いて、「どうして」や「どのくらい」などと質問すればよいと思います。</p> <p>何を頑張っているかを聞き、「どうして」や「どのくらい」などの質問をして、友達の頑張りを詳しく知ることができたんですね。</p>	<p>質問の内容に着目して、質問のときに使った言葉が有効であったことを評価する。</p> <p>友達の質問の内容に着目して、質問のときに使った言葉が有効であったことを評価する。</p> <p>「学び合い」後の質問の内容に着目して、質問の言葉の評価する。</p>
--	--

振り返りに関して期待される子供の発言や記述

- ・ 質問するときには、大事なことから尋ね、その後詳しく聞きたいことを尋ねたらよいことが分かった。
- ・ 友達の頑張りを紹介するためには、友達の頑張っていることが詳しく分かる質問をすればよいことが分かった。
- ・ 「学び合い」の後で、もう一度質問し合うことで、最初の質問よりも友達の頑張りを知ることができた。